

新築移転地で 免震装置見学会

朝霞台中央総合病院

医療法人社団武蔵野会朝霞台中央総合病院(中村毅理事長、村田順院長)は13日、新築移転工事が進む朝霞市溝沼の東洋大学朝霞キャンパス総合運動場・総合体育館跡地で、免震装置見学会を開いた。病院職員や消防関係者、近隣住民など約150人が参加した。

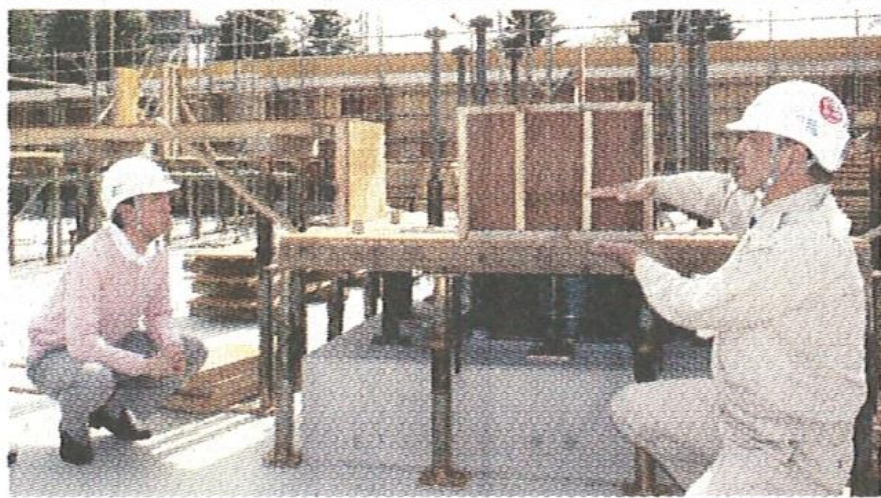
新病院では建物基礎部分に66基の免震装置の設置を予定しており、そのうち設置済みの20基を見学。設計や施工などを担当する清水建設の責任者が説明した。国内に4台しかない免震車も用意され、一般的な耐震構造と免震構造での揺れの違いを体験した。

見学を終えた中村理事長は「工事段階でしか免震装置が設置される場面は見られない。免震車で耐震と免震の揺れの違いを体験して、免震工法のすごさも実感した。災害時は地域の避難場所になるの

で、行政や消防、地域の方々と連携・協力していきたい」と話していた。

新病院は2017年秋に完成し、18年1月に開院予定。敷地中央に7階建ての病棟を建築し、病床数は現在から120床増やして446床となる。

設置された免震装置を前に清水建設担当者から説明を受ける中村毅理事長(左) 朝霞市溝沼



2016年 4月16日 土曜日
(平成28年)